



オンライン学習歴の可視化 を考える

東京国際交流館国際シンポジウム 09.25.2023

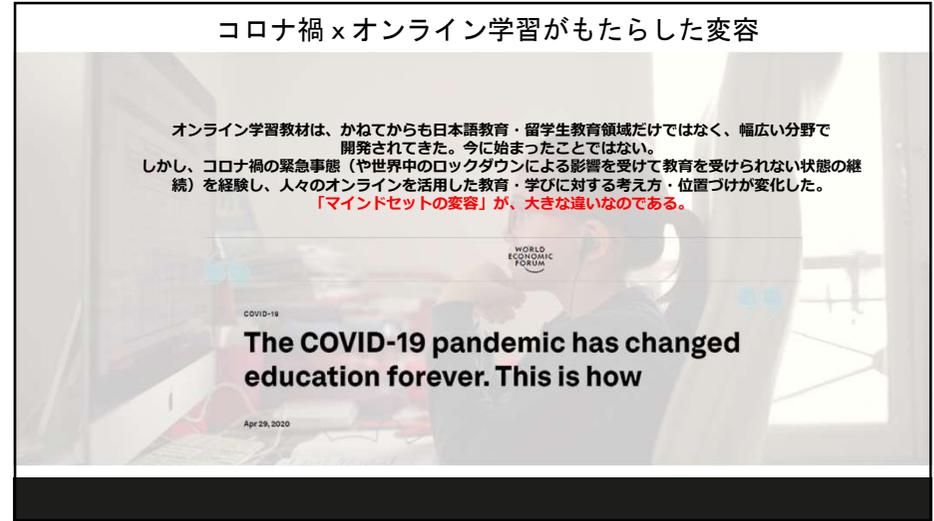
関西大学国際部 | JV-Campus 専門部会構成員
池田佳子 古川智樹

keikoike@kansai-u.ac.jp | furukawa@kansai-u.ac.jp

1

コロナ禍 x オンライン学習がもたらした変容

オンライン学習教材は、かねてからも日本語教育・留学生教育領域だけではなく、幅広い分野で開発されてきた。今に始まったことではない。しかし、コロナ禍の緊急事態（や世界中のロックダウンによる影響を受けて教育を受けられない状態の継続）を経験し、人々のオンラインを活用した教育・学びに対する考え方・位置づけが変化した。「マインドセットの変容」が、大きな違いなのである。



WORLD ECONOMIC FORUM
COVID-19
The COVID-19 pandemic has changed education forever. This is how
Apr 29, 2020

2

多様なオンライン学習

オンライン教育コンテンツは、より高質に、そしてよりインタラクティブなものへと、技術の進化と共に日々改善されていく。以下のような既存のコンテンツは、2023年現在アクセス可能な優れた教材ライナップである。今後、生成AIを用いた機械学習や、メタバース等のハイパーレゼンス空間、没入型テクノロジーなどを用いた言語学習の環境がよりアクセス可能となり、さらにこのようなEdTech x Japanese は学習の「当たり前」のフェーズとなっていくだろう。

01 - 自学可能なオンライン学習サイト①：コース型

- > いろいろ日本語オンラインコース：生活日本語の学習
- > エリンが挑戦！にほんごできます：中等教育向け映像教材
- > まるごと日本語オンラインコース：総合日本語学習

02 - 自学可能なオンライン学習サイト②：項目特化型

- > NHK日本語講座：やさしい日本語（会話動画）
- > Tae Kim's Guide to Learning Japanese：英語による文法解説動画
- > 日本語の森（youtube）：JLPT文法・漢字動画解説

03 - AI搭載型日本語学習アプリ：

- > Duolingo：文法・語彙学習（AIによる練習問題とフィードバック）
- > IPPO：JLPT対策学習（勉強時間の可視化とJLPT目標合格率、学習ステップの提案）

04 - オンライン言語学習コミュニティサイト/アプリ：

- > Lang-8：ネイティブスピーカーからフィードバックがもらえるライティング学習プラットフォーム
- > Tandem：対話型言語交換

05 - Japan Virtual Campus 日本語教育BOX | 特設BOX(戦略的BOX)

外国人留学生向け「キャリア教育」コンテンツ(2023.11公開予定)

無料版でもかなりの数がある

3

外国人留学生向け「キャリア教育」コンテンツ（2023.11公開予定）

大テーマ	中テーマ	内容
日本でのキャリア形成① 業界理解：業界を知ろう	#1 日本企業と産業の仕組み	1.1. 日本企業の仕組みとSDGs 1.2. ESG投資 1.3. 日本を代表する産業の理解
	#2 日本の産業の現在	2.1. 日本の各産業や企業をめぐる現状と課題 2.2. 日本の脱炭素（カーボンニュートラル）戦略 2.3. 日本の「イノベーション戦略」
	#3 日本の産業と企業の研究	3.1. 業界企業研究の基本 3.2. 業界企業研究のための情報源 3.3. 業界・企業分析レポートの作成
日本でのキャリア形成②	#4 日本の就職活動	4.1. 職業観とは？ 4.2. 日本の就職活動の特徴 4.3. 日本企業の雇用慣習
	#5 日本の就職活動理解①	5.1. 日本の企業界からの期待 "Diversity & Inclusion" 5.2. 日本の就職活動で注目されているトピックス ①総合職採用&ジョブ型採用 5.3. 日本の就職活動で注目されているトピックス ②終身雇用制度、年功序列、45歳定年説
日本での就職： 日本の就職活動を理解しよう	#6 日本の就職活動理解②	6.1. 日本の就職活動で注目されているトピックス ③働き方改革、ホワイト企業 6.2. 日本の就職活動で注目されているトピックス ④働く女性の「M字カーブ」問題など 6.3. 日本の就職活動で注目されているトピックス ⑤外国人材採用
	#7 日本での就職活動の方法	7.1. 就労情報を得るための情報源 7.2. 働く人たちの価値観について 7.3. 企業から（前）学生への問い：面接対策
	#8 自己分析の方法	8.1. これまでの人生を振り返る 8.2. 自身の特性を把握する 8.3. キャリアプランニング
日本でのキャリア形成③ 自己分析：自己分析をして、 就職活動に進もう	#9 企業から求められる能力	9.1. 企業に求められる能力①ロジカル/クリティカルシンキング 9.2. 企業に求められる能力②アサーティブコミュニケーション 9.3. 企業に求められる能力③異文化適応能力
	#10 自己PRの文書作成	10.1. ESの書き方 10.2. 履歴書の書き方 10.3. 自己PR・志望動機の書き方

4

外国人留学生向け「キャリア教育」コンテンツ 教材・活用イメージ

Micro Learning



- ・ アバターを用いた講義動画
(オンデマンド学習)
- 各講義動画15分程度
- アバター・文章読み上げ機能
を用いて収録
(後からの修正がいつでも可能にする)

Contact Learning



- ・ E-learning
(理解確認小テスト)
- JV-Campus内に練習
問題を搭載
- 解答に関する解説・
フィードバックを付け
て、自主学習が可能に
する

5

01

議論点

これらのリソースを有機的・効果的に活用した教育・学びのスキームとは？

- ◆ 大学等教育機関がオンライン教育コンテンツ（以下OER | Online Education Resource）を融合して活用する場合
- ◆ 学習者個人がJVC（や他MOOC）などのプラットフォームを通して独自に活用する場合

6

02

議論点

オンライン学習の「学びの質の保証」
「教育の質保証」をどのように担保した
らよいか？

- ◆ 「学びの質の保証」 学びの質は、**個々の学習者が実際に取得した知識、スキル、理解度、および学習成果の品質**を指す
- ◆ 「教育の質保証」 教育システムや教育プロバイダーが提供する**教育全体の品質**で、教育の設計、実施、管理、評価、資源の提供など、あらゆる側面が含まれる

7

03

議論点

オンライン学習における「教育の質保証」
はどうするか？

「教育」は学生（学習者）を対象としたサービスの提供：

内部保証

- ① 設置基準や関係法令を満たすという「欠点がない」こと

外部保証

- ② 独自のカリキュラム編成や授業展開など**学校運営の面から**「学生が満足する」・「学修成果をあげる」こと

8

04 オンライン学習を活用した場合の「学びの質の保証」

議論点

- ◆学習量（総学習時間）
- ◆評価の方法（アセスメント）
- ◆到達した学習成果（コンピテンシー・能力）の保証（保証主・機関はどこか）
- ◆レベル
- ◆どの様な教育内容になっているか 教授手法
- ◆講師の資格、トレーニング有無
- ◆単位互換・換算する場合の解釈の仕方

教育機関が融合して活用する場合 非伝統的な学習プロセスにおいて活用する場合

05 デジタルバッジやマイクロ credenシャルの活用

非伝統的な学習プロセスにおいて活用する場合

「どんな教育で、どのような学習活動を経て、どのような学修成果を修めているか」をデジタル化（可視化）し、ポータルかつ積み上げ可能（越境して活用）にする新しいクレデンシャル



マクロ学位(修士号・学士号等)ではない新たなスキルやコンピテンシーの修得として日本語を学んだ場合



外国人留学生や社会人・就労ビザで在留する層が、自身のキャリアアップのために日本語を学ぶ場合



国外のMOOCや教育プロバイダーが提供するオンライン教育で学んだ場合

マイクロ credenシャルは教育、デジタルバッジは情報

マイクロ credenシャル	デジタルバッジ
<p>新しい教育のフレームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の領域を学んだ学修成果の記録（リカレント教育、リスキリング） <p>フレームワーク（枠組み）策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育や資格の制度を国、地域（EU）、教育機関、団体等が決める ・マイクロ credenシャルの授与の必要条件 <p>信頼への寄与方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の質保証による信頼（学修成果を評価し、保証する） ・信頼できる授与機関であることを示す 	<p>情報技術仕様（標準）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汎用的なデジタル証明の技術（参加証、学修証明、資格証などのデジタル発行の他に、免許証などにも広く使われる情報技術） <p>技術仕様（標準）策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な情報技術団体等が決める ・情報の記載と検証の方法 <p>信頼への寄与方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報のセキュリティによる信頼（例：情報が改ざんされていないこと、偽造でないことを証明する。）

混同されている場合があるので注意。

事例：専門家団体PMIがマイクロ credenシャルをデジタルバッジで認定 慶応義塾大学 井上雅裕教授



学修成果を記録 デジタル技術で検証

慶応義塾大学井上雅裕教授（JVC専門部会委員）作成

JVCでのオープンバッジの活用開始（2023）

オープンバッジ（情報を証明する技術）

世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明・認証ータとして授与され、自分専用の「オープンバッジウォレット」で一元管理される

オープンバッジはスキルや知識といった学びの証明だけでなく、リーダーシップといったソフトスキル、ボランティア活動といったイベント参加の経験等、様々な種類がある

- スキルバッジ
- 知識バッジ
- 社会的スキル・生活スキルバッジ
- 参加バッジ
- 識別（ID）・所属バッジ（学生証のようなもの）

いわゆる「バッジの洪水」も心配なところではある

マイクロ credenシャルを証明する手法としても活用が進む




Participation Micro-Credential

06

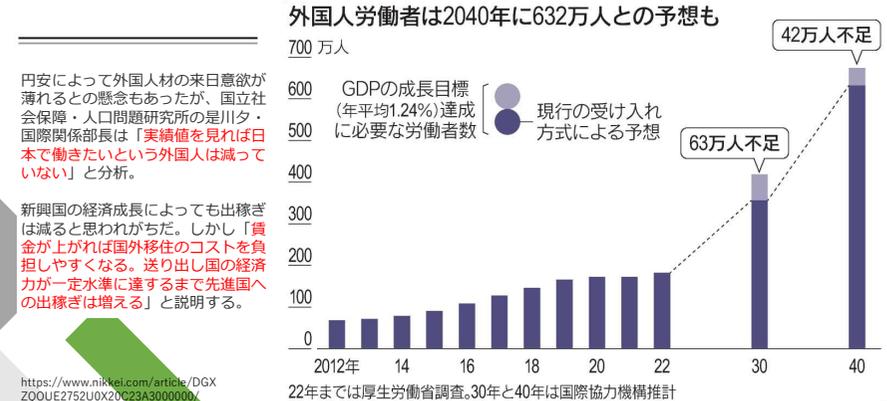
オンライン学習歴を可視化したら、 どんないいことがあるか？

- ◆オンライン教育を活用したときに、「日本語教育の学びの可視化」をするのにデジタルバッジやマイクロレデンシャルを活用し、より多様な「教育の提供者」との連携を可能にすることができる（我々は、果たしてそれがしたいか？）
- ◆世界の国々をまたいだ、日本語学習をした人材活用スキームの実現を考えると、MCの世界は大きな可能性を持っている。

13

今後も日本で働く外国人は増えるか：YES（当面）

GDP 7000ドルの壁 | Vietnam 3756 Philippines 3460 Indonesia 4332



14

日本語教室空白地域の割合

色の濃い都道府県ほど高い



15

ご清聴ありがとうございました！

東京国際交流館国際シンポジウム 09.25.2023

関西大学国際部 | JV-Campus 専門部会構成員
池田佳子 古川智樹

keikoike@kansai-u.ac.jp | furukawa@kansai-u.ac.jp

16